

農 × 福 連 × 携

「新たな農福連携の推進に向けて」

滋賀県では、農業分野における障害者の活躍の場を広げるとともに、農業と幅広い福祉（障害者、医療、高齢者、子ども食堂など）の連携による取組を「新たな農福連携」として、「誰もがいきいきと地域で暮らし、ともに働き、ともに活動する共生社会づくり」を進めています。



令和3年3月
滋賀県

滋賀県が進める「新たな農福連携」

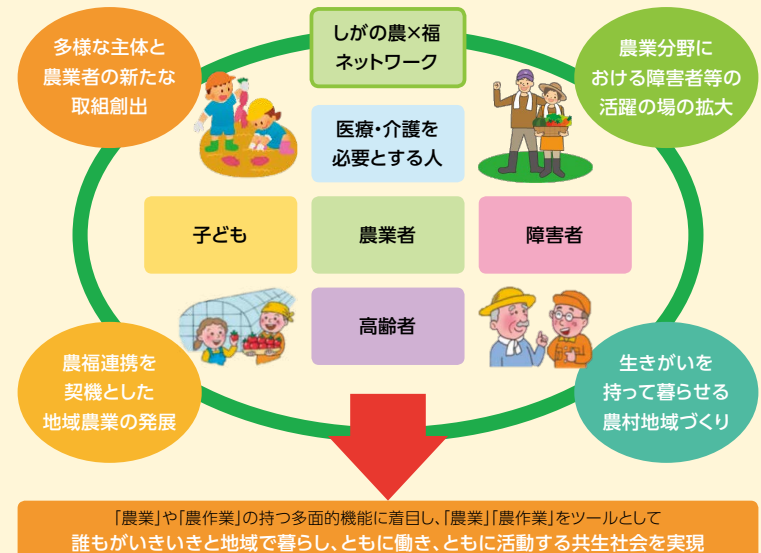
滋賀県では、農業分野における障害者の活躍の場を広げるとともに、農業と幅広い福祉（障害者、医療、高齢者、子ども食堂など）の連携による取組を「新たな農福連携」として、「誰もがいきいきと地域で暮らし、ともに働き、ともに活動する共生社会づくり」を目指しています。

県内の「新たな農福連携」としては、農業者が福祉作業所等へ農作業の一部を委託する農作業の受委託、福祉事業所等による農産物の生産・販売、農家の方から地域の子ども食堂への農産物の提供、医療・介護現場でのリハビリテーションの一環としての農作業の導入などがあります。

このリーフレットでは、県内での「しがの農×福ネットワーク」の会員の方の事例や県の制度や支援策等の概要を紹介しますので、滋賀県が進める「新たな農福連携」に関心を持っていただければ幸いです。

「しがの農×福ネットワーク」 参加団体・個人を募集しています

「しがの農×福ネットワーク」とは、「新たな農福連携」に関心のある個人、グループ、民間団体、企業、大学、行政機関などが、参加者どうしの意見交換や農福連携の取組の支援などを行うことにより、滋賀の農福連携を推進しているネットワークです。



ネットワークの詳細な内容と参加申込書は、県HPに掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

[滋賀県 農福連携](#) [検索](#)

多様な主体と農業者の新たな取組創出 「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の取組 (県子ども・青少年局)



(写真提供: 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会)

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の取組について

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」は、主に地域のボランティアやNPO、企業など有志の方々により運営され、ご飯を通じて地域ぐるみで子どもを見守り育てていく垣根のない居場所です。食堂をきっかけに様々な世代がつながり、困っている人を放っておかない、あたたかいまなざしがあふれる地域づくりを進めています。

令和2年11月末現在、県内には136か所の子ども食堂が開設されていますが、子どもたちが歩いていける範囲である小学校区に一つ以上子どもの居場所が広がるよう300か所を目指しています。

子どもたちにとって、農業を体験することや地元で採れる季節の食材を使った料理をつくり味わうことは、滋賀ならではの農産物や食文化の魅力を知る良い機会です。また、次世代を担う子どもたちとその家族にアプローチすることで、農業に関心を持つ者や将来の消費者を増やすことも期待できます。農業者の皆様、地域の子どもの食堂の運営にご参加・ご支援いただけることを心待ちにしております。

(しがの農×福通信 第7号(2020年10月)から抜粋)

多様な主体と農業者の新たな取組創出 「農作業をリハビリテーションに生かす」 (県健康寿命推進課)



農作業を医療や介護に生かす取り組みをしています

医療・介護×農作業!?

「リハビリテーション」と聞くと、病気やケガで体が不自由になった方が、訓練室の中で体を動かしたり、歩くような様子を想像されるのではないのでしょうか。

実は、1900年初頭に精神科病院で精神的効能を得る目的で、農作業がリハビリテーション(作業療法)として実施されました。

近年、医療や介護分野で「農作業」が身体面、精神面、他者との交流、役割の獲得など社会参加といった様々な側面に複合的に働きかけ、生活の質を向上させる効果があるといわれており、リハビリテーションの手段として注目されています。

滋賀県では、多くの医療・介護施設で農作業をリハビリテーションとして活用できるよう、医療・介護施設向けに取組事例をまとめてリーフレットにしたものを県ホームページに掲載しますので、参考にしてください。また、畑の管理や農作業の知識・技術の面で、農業関係や地域の方とつながって取り組んでいきたいのでご協力をお願いします。

(しがの農×福通信 第8号(2020年12月)から一部抜粋、改変)

農業分野における障害者等の活躍の場の拡大

共栄精密株式会社 高島きのごセンター

(高島市)



地元で働き、日々成長していく

共栄精密株式会社 高島きのごセンターで働く従業員は11名で、そのうち障害者の方が4名、自閉症の方が1名です。

障害者の従業員の方々は、菌床への散水、室内の水掃き、商品のパック詰め、シール貼り、箱詰めなどに従事されています。女性従業員が多いため、菌床の運搬などの力作業を障害者の男性従業員に任せることもよくあるそうです。

基本的には毎日決まった作業になりますが、日によって変わることもあります。当初はいつもと違う作業が入るとパニックになってしまいましたが、最近は作業に慣れてきたことで、保護者が驚かれるほど、臨機応変に対応できるようになったと現場責任者の方がおっしゃっていました。

製造したきのは、東京の大手デパートや生協等を中心に出荷をされています。年間を通じた安定供給により、大手デパートなどから信頼を得ることができ、また年間を通じて継続した仕事を作ること、障害者の方への仕事が生まれ、障害者雇用につながっています

(しがの農×福通信 第5号(2019年10月)から一部抜粋、改変)

農業分野における障害者等の活躍の場の拡大

NPO法人縁活 おもや

(栗東市)



農福連携の入り口は「地域のお手伝い」

「『農』を一つの手段として事業所の利用者の皆さんの“自己実現”を目指しています。結果的に農業をやっていますが、僕は、たまたまその入り口が福祉だっただけです。」

この想いは農福連携を行っていく上で忘れることの無いように、スタッフにもその都度共有しているという「NPO法人縁活 おもや」代表の杉田さん。これから農福連携に取り組もうとしている方々には、「今まで本当に農福連携やっていませんでしたか?」と聞きたいそうです。

「地域の農家の『手伝い』とかやったりしてなかったですか?それが農福連携なんです。皆さん、どこかしらで困っている人の手助けをしたりしているはず。地域に困っている人はいませんか?とコミュニティに入っていきのが第一歩やと思います。」と伝えてくれています。

(しがの農×福通信 第7号(2020年10月)から一部抜粋)

農福連携を契機とした地域農業の発展

ひのでファーム

(蒲生郡日野町)



農福連携は「新たなチャレンジ」の始まり

「新たなことにチャレンジし、ワクワクするような農園を作り上げていく。そして、消費者の方に喜んでいただきたい。今回、Mさんを採用したことで、自分達だけだと手が回らないと諦めていた夏野菜やイチゴ栽培などもチャレンジできるようになりました。」と、ひのでファームを運営されている里路さんは話します。

「障害者雇用では、一般的な雇用に比べ困難に感じることや効率が下がる場合があるのも事実です。しかし、少し工夫すれば、任せられることもたくさんあります。」と話す里路さんは、個性を尊重し居場所を作ることでその人にしかできないような力を発揮できると考えています。

「農福連携・障害者雇用のハードルは低くはないです。でも、それを進めていくことで、農業者の栽培面積の拡大や品目の増加と障害者の雇用先の増加により両者にとってプラスがあります。そのように考える方が増え、両者の笑顔が増えたらいいなと思います。」と農福連携等を考えている方へのメッセージを笑顔で伝えてくださいました。

(しがの農×福通信 第8号(2020年12月)から一部抜粋)

生きがいをもちて暮らせる農村地域づくり

観音寺自治会×社会福祉法人パレット・ミル

(栗東市)



地域をみんなで支え合い創っていく

平成29年(2017年)10月に、観音寺自治会から、「人手不足で手が回らなくなってきた農地を一緒に守ってほしい」との依頼を受け、社会福祉法人パレット・ミルが集落の農家から農地を借り受け、水稲やにんにく等を栽培し、協働で農業に取り組まれています。

水稲の定植や収穫等の農作業だけでなく、日々の田んぼの水管理や農道の草刈りも協働で行っています。月1回「天水会」という会議を開催し、次は何を植えるかなど、作業内容・日程を毎回相談しながら進めています。

この連携を始めるまでは、年2回の集落内の道路脇の草刈りと夏祭りへの出店に限った繋がりがあったそうですが、毎月顔を合わせるようになったことで、地元の大野神社で行われる祭りの神輿の担ぎ手に参加したり、集落の方とのバーベキュー大会を開催するなど、中山間地域の活性化の一助になっています。

(しがの農×福通信 第4号(2019年7月)から一部抜粋)

発行
滋賀県農政水産部農政課
〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号
TEL:077-528-3812 FAX:077-528-4880
E-mail:ga00@pref.shiga.lg.jp

農福連携の動画公開中! [滋賀県 農福連携](#) [検索](#)